

平成30年度第2回清瀬市災害医療救護協議会 会議録（要旨）

1 日時

平成31年1月21日（月）19時00分から20時20分まで

2 場所

清瀬市健康センター2階 第1会議室（清瀬市中里5-842）

3 次第

(1) 開会

(2) 挨拶（会長）

(3) 議事

① 清瀬市総合防災訓練について

② 公立昭和病院における災害医療図上訓練について

③ E M I S（広域災害医療救急情報システム）について

(4) その他

(5) 閉会

4 参加委員 11名

5 議事録

【事務局】 それでは、ただいまより平成30年度第2回清瀬市災害医療救護協議会を開催させていただきます。本日は大変ご多忙の中、お集まり頂き、ありがとうございます。それでは、はじめに会長よりご挨拶を頂きたいと思っております。よろしくお願い致します。

【会長】 はい。今回第2回ですけれども、この度は2月3日に公立昭和病院で図上訓練をやることになっています。これも今日の議題に入っていますので、事務局の方から後で説明があると思っております。それでは早速、事務局の方から議題一番の清瀬市総合防災訓練について説明をお願いします。

【事務局】 議事①「清瀬市総合防災訓練について」説明

【会長】 これに関しての打ち合わせはいつやるのか。

【事務局】 例年ですと大体5月、6月に災害医療救護協議会を設けさせて頂いて、その中で協議をさせて頂いたと思っております。次年度もできるだけ会長と時期を早めて取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

【会長】 防災訓練当日10月6日の代替日は翌週13日になるのか。

【事務局】 6日のみで考えています。雨になってもたとえば昇降口でやるとか、

そういったことを考えますのでよろしくお願いします。

【会長】 では、これに関して何か先生方から質問はありますか。またトリアージなども含めて詰めていきたいと思えます。では、二つ目の昭和病院の図上訓練について、説明をお願いします。

【事務局】 議事②「公立昭和病院における災害医療図上訓練について」説明

【会長】 では、これについて何か質問はありますか。サイコロ補正というのは、あまり聞いたことがないが何か。

【事務局】 はい。指定された区域だけの数字ですと、おそらく今の計算式で全てが成り立ってしまうということで、当日は本当にサイコロを振って1から6の数字を当てはめて、その危険度の調整を図ろうとするものだと推測されます。

【会長】 こういったものは消防の方も使いますか。

【委員】 火災が何件発生したとかで訓練をやっておりますので、この計算式は図上訓練では使いません。

【会長】 実際こうなってみないとわからないということですね。

【委員】 通信の問題なのですけれども、当日は各部署の連携というのはどういうかたちで行われるのでしょうか。

【事務局】 詳細はまだ示されていないのですが、今のところ、各ブースにパソコンが設置され、情報の集約にはEMISを用いると考えております。今のところ8月に簡単な説明があったのですが、その時には、まず被害状況の集約を行うということなので、この際にまずEMISが必要になると。その後、救護所と避難所に関する検討を行うと。その次に避難所の状況アセスメント、搬送訓練、DMAT派遣の検討、医療圏ごとの独自の課題検討を行うという説明がありました。

【委員】 当日は各拠点病院等にEMISの機械を置いて通信してやるということでしょうか。

【事務局】 そうですね。各ブース、各機のところに1台ずつパソコンが配置されまして、そこに各医療機関がすでに配置されているEMIS、もしくは、BCポータル、そちらのID、ログインパスワードを持参致しまして、それぞれが入力するというかたちだと聞いております。

【委員】 BCポータルというのは衛星通信のことでしょうか。

【事務局】 このEMISが配置されているのは拠点病院と連携病院、救急告示病院だけで、平成31年度に全ての病院に配置される予定です。現在EMISが配置されていない病院を補うために、東京都の方で独自にBCポータルというツールを作成しておりまして、そちらのIDとパスワードが東京都内の病院には配布されております。

【委員】 この北部、中部、南部というのは初めて見たのですけど。この連携病院とか支援病院とか避難所とか、北部、中部、南部でどのような感じ

ですか。

【事務局】 はい。訓練の前提として、市内を何分割かにして下さい、という条件が提示されていることから、市内を3分割することを提案致します。北部には織本病院さんが災害医療支援病院として、中部には山本病院さんが支援病院として入っています。南部には東京病院さん、複十字病院さん、拠点病院と連携病院が近いエリアにありますので、ここはもう南部の中にその大きな病院二つが入ってしまうというところはやむを得ないかたちで北部、南部、中部と分けたところですよ。

【委員】 避難所もだいたい均等した場所にあるのでしょうか。

【事務局】 はい、あります。ただ、どうしても北部地域の方は畑が多いということがありますが、人口割でいったらうまく並べているので、そこは大丈夫だと思います。

【会長】 当日を楽しみにしたいと思います。では、次の議題で、EMISについて、説明をして下さい。

【事務局】 議事③「EMIS（広域災害医療救急情報システム）について」説明

【会長】 過去にこのEMISを使ったことはあるのか。

【事務局】 平成26年度にEMISが開始してしまっていて、おそらく使っているとは思いますが。たとえば、現在の状況ですが、福島県がやはり原発の関係がありますので警戒中になっています。過去の状況というのが確認できないのですが、おそらく使用はしているかと思えます。

【会長】 被災地以外のところからパスワード入れてログインできるというのであれば、たとえば熊本で震災があった時に東京都でも熊本の状況はわかるのか。

【事務局】 閲覧はできると思います。

【委員】 情報を入れるのは各病院、緊急医療救護所と考えてよろしいでしょうか。いろいろある項目の情報を、要するにどういう人達がどんな傷病を持っているかというデータがほしいということでもいいでしょうか。

【事務局】 そうですね。医療救護所の方の項目は市で入力します。ガイドラインの方では各医療機関が入力する項目というのが別にあります。その場合はやはり患者さんの内容になります。EMISは今こういった患者さんがどの医療機関、どの救護所にどのくらいいるかということを情報集約するシステムです。公立昭和病院の地域医療コーディネーターの先生等がこのEMISを見て、清瀬市はこれ以上患者の受け入れができないとか、逆に患者の受入が可能であるだとか、パンクしているとか、そういったものをわざわざ市の方に問い合わせをせずとも、こちらのEMISの方で確認ができると。また、市の対策本部につきましては、こちらのEMISに入力されていることによって各医療機関の被災状況や患者の受入具合が電話回線等を通じなくても一目でわか

るということになります。

【会長】 いずれにしても入力をする人が訓練をしておかないと。各病院もそう
なった時のことをちゃんと想定しておかないと。市ももちろんそうだけ
ど。

【事務局】 E M I S の入力訓練につきましては、一応訓練モードがあり、国が決
めておきまして、それがだいたい年に2回から多くても3回くらいあ
ります。市もその日に合わせて入力訓練をしています。

【会長】 別個でまたこういう会議を開いて説明会をやった方がいいと思う。今
ので、なにか質問はございますか。

【委員】 情報の収集に関して、あるいは指示命令に関して、横でお互いにやっ
てはいけない話ですか。必ず上を通して上から東京病院に連絡しない
といけないのですか。

【事務局】 病院間の搬送につきましては、病院ごとの患者数が E M I S で把握で
きていけば病院間のやり取りができると思うのですが、今の時点で東
京都が想定しているのは全て、いわゆる医療救護活動拠点の健康セン
ターを通してやり取りをすることになっています。

【委員】 首都直下ですと、うちが想定しているのは、都内の病院はだめと判断
していますから、都外搬送になる。その時の材料としてこの E M I S
を必ず使います。市内であれば病院の情報を頂いて、搬送可能であ
れば、受け入れてもらえるか連絡をする。隊選定か警防本部選定と両方
あるのですが、隊長が直接先生方に電話かけてというやり方と、も
う一つは警防本部に選定してもらってという。情報は大手町が集約し
ていますので。 E M I S は震災時、必ず使います。この情報を必ず立
ち上げて、これを必ず救急隊の元情報としてチェックは全部します。

【会長】 たとえば救急車の怪我人をどこかに運びたいという時、まだ E M I S
が立ち上がってなくて、その材料がなかった時はどうするのか。

【委員】 いつもの通りやるしかないです。この情報があれば、確定情報なので、
そこに運びますけど。ないのであれば、自分達で連絡をしてというこ
とになります。さっき言ったように発災した時は、どこの病院も大変
な状態で受入はできないので、都外の方を考えていくというのがこの
活用方法です。

【会長】 今やり方を聞いていると、入力するまでの時間がかかりかかると思う。
材料がまず来て、トリアージのタグがあればそのまま入力できるけど、
それが入力できて整理するのに、7時間なんてあっという間に経って
しまう。

【事務局】 緊急医療救護所は、立ち上がった後と立ち上がる前でまた話は違って
きまして。そもそも緊急医療救護所というのは病院にあまりに人が殺
到して、病院の機能が損なわれるのを防ぐ役割がありますので、 E M

I Sがあるかどうかは別として、各緊急医療救護所が立ち上がった場合、無線を各緊急医療救護所に1台ずつ配置しますので、たとえば東京病院さんの場合、緊急医療救護所に赤タグが入り、黄色タグになりますと複十字病院さんに搬送ってということになっています。ただ、複十字病院さんの方で受入ができない場合がありますので、その際にはやはり一度本部の方に患者を搬送できないかということを確認して頂きます。

【会長】 赤タグの中でも状況が違くと受けられる状況と、やはり複十字病院の方が強いという状況があるから。他の病院の方がいいという場合もあるし、そういう時はどうするのか。

【事務局】 説明会でもお話がありましたが、発災時間によっていらっしゃる先生が違ふと思います。ただ、あくまで市の方に、たとえば複十字病院さんの緊急医療救護所は赤タグが発生した時に聞いて頂くと。東京病院さんに一応赤タグを搬送することになっていますが、今の医療スタッフでは対応できないということもありますので、それについては市の方から確認をし、医療コーディネーターにも助言、指示等を頂いた上で、場合によっては他の病院さんの方に搬送することになります。

【会長】 今度の図上訓練でこういう話をして、実際にやりだすとわかると思う。たとえば救急車が市民に呼ばれて助けたときにそれをどうするかというのも考えないといけない。救急車はそのまま緊急医療救護所に行かずに病院に行きますよね。

【委員】 搬送となった場合はそうなりますけど、震災時の救急の運用は非常に難しいと考えます。ですから、今市の方の計画も事務局が言っているのは、搬送は救急車ではなくて違う手段、人員で担架で運んだりとか自家用車で運んだりとかを想定して、その傷病者を病院で分けていこうという計画をある程度立てているということになります。

【会長】 ご出席なさっている委員の方々からは何かないですか。

【委員】 時間的な問題で、発災時のたとえば日中と夜間とで人口が違ってきますし、日中の方が人口は減っているのかと思いますけれども、その場合の対応だったり。あと、どこに連絡したらいいのか、緊急連絡的な問題として、発災した時にどこに連絡をしてどういう人がどういうかたちで連絡をするのか理解できたらいいなと思います。

【会長】 夜間と昼間との差は、この図上訓練では想定として、今回は昼間でやるけど全体のこともやらないといけない。ただ、全部するわけにはいかない。想定をしながらやっていかないといけない。連絡は今無線を考えていた。発災時の連絡網も今考えている。

【事務局】 考えているのはMCA無線という携帯型のデジタル無線です。

【会長】 みんなでそういったものを持って横の連絡をしながら、本部とも連携

をとって。運用に関しては各師会で決めておかないと。あとは無いですか。無いようなので事務局にお返しします。

【事務局】

ありがとうございました。2月3日は色々な想定される条件があり、その中で対応をしなくてはいけないと思います。様々な反省点が出てくるかと思いますが、それも踏まえて今後勉強していきたいと思います。また、2月22日には、地域医療連携会議が公立昭和病院でありますので、また情報が入り次第、情報提供をさせて頂きたいと思います。それでは、これにて本日の会議を散会とさせていただきます。ありがとうございました。